

国立病院機構熊本医療センター

No.158



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

初期臨床研修説明会 開催される

平成22年6月26日、当院で医学生を対象に初期臨床説明会を開催しました。あいにくの大雨の中、九州一円から79名の医学生が参加していただきました。参加者への院長からの歓迎の挨拶にはじまり、副院長、臨床研究部長から病院の取り組みと国立病院機構の特色についての説明を行いました。今回の説明会のハイライトとして、研修2年次の宮川先生、川原先生、大内先生から、研修生活を生き生きと紹介してもらいました。学生にとって2年後の目標を明確にイメージ出来たのではないかと思います。

病院の施設見学の後では、医局のカンファレンス室での意見交換会となりました。やや、すし詰め状態で、参加者には申し訳なかったのですが、軽食を摂りながら話が弾み、具体的な情報交換が出来たと思います。

今回の説明会に多くの学生の方に参加していただき、大変有り難うございました。新しく研修を希望する人たちのためにも、さらに現在の研修システムを改善していきたいと思っております。今後ともよろしく願います。
(研修部長 清川 哲志)



初期臨床研修説明会の様子

第29回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

標記連絡会を下記の要領で開催します。先生方はもとより看護部門、事務部門、MSWなど多数のご参加をお待ち申し上げます。なお、連絡会の後に意見交換会も予定しております。ご希望の方は、事前に郵送しますはがきにてお申し込み下さい。なお当日受付でも申し受けます。

日時 2010年9月2日(木) 午後7時～午後9時

場所 くまもと県民交流館パレア(鶴屋東館)

- 内容 1. 開放型病院連絡会総会(10階 パレアホール)
1) 症例呈示 2) 病院からのお知らせ 3) 総合討論
2. 意見交換会(7階 鶴屋ホール)

意見交換会の会費1,000円は、当日受付で申し受けます。

【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課(担当:高倉、横尾)

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線5690)

FAX 096-325-2519



「神様仏様…」

特定医療法人社団
ピネル記念病院
院長 上妻 明彦



精神科の上妻と申します。熊本市の健軍の少し先にあるピネル記念病院に、はじめは副院長として、さらにその後、理事長の小笠原が理事長に専念するため院長に就任してもう13年になります。当院は精神科の単科病院で、入院120名ですが、いわゆる老人病棟のない純粋な精神科の専門病院です。常勤医師は4名で、全員が精神保健指定医、精神科専門医という、比較的恵まれた環境であります。

当院だけでなく、単科の精神科病院はどうしても身体合併症に対して十分な対応ができない傾向があ

ります。私の前の職場である国立療養所菊池病院（今は独立法人化して長い名前になっておりますが）時代も、合併症あるいは悪性腫瘍などで手術や処置の必要のある方々が出た場合、受け入れてくれる病院を探すのに大変な思いをしたものでした。「精神科の患者は何をするかわからないので、他の患者と一緒にでは困る」などと断られることが多かったのを覚えております。

精神疾患については、昔ながらの統合失調症（精神分裂病は2002年、平成14年にこのように改称されました）はもちろんです。最近、うつ病を始めパニック障害などの不安障害など多彩な病気があり、昔のような雰囲気ではなくなってきているのですが、なかなか十分な理解が得られないことがあります。

しかし、この十数年は熊本医療センターのおかげで、合併症が出て余計な労力を使わず、ただ「お願い」して、いつでも快く引き受けていただけるため、非常にありがたく思っております。精神科のある総合病院で、救急体制もとっている熊本医療センターは私たちにとって、「困った時の神頼み」に近い、神様のような存在に感じております。実は、現在も当院の入院患者様がPEG処置で入院をお願いしておりますが、これからも、よろしくお願い致します。最後になりますが、時間外も含め過酷な診療に従事されているスタッフの皆様のご健康をお祈りいたします。

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受診日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表 096-353-6501 内線 2360）またはFAX（医事 096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

（経営企画室長 中村 敦）

平成22年度 第1回 熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成22年度第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が7月8日(木)午後7時より、熊本県歯科医師会館会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは清村正弥会長、藤波好文副会長、渡辺猛士専務理事、宮本格尚医療管理理事、関喜英医療管理委員が出席いただき、当院より池井院長、河野副院長、片渕地域連携室長、高橋救命救急部長、中島歯科口腔外科医長が出席しました。

清村会長、池井院長からあいさつの後、議事に入りました。まず、当院の歯科紹介率の議題では中島医長から、紹介率は横ばいながら歯科医師登録医が昨年度30余名増加し、250名を超え増加していることが報告されました。

次いで、当院の歯科救急医療についての議題では、高橋部長より今年上半期も昨年とほぼ同数の74件の歯科口腔外科救急症例があり、交通外傷が多いことが示されました。

次に毎年好評で参加者の多い救急蘇生講習会について、今年度の開催が11月11日(木)であることを確認

し、直前の混乱がないように1週間前までに参加者の確定を行うことを申し合わせました。

続いて河野副院長から、平成22年度第1回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が9月2日(木)午後7時から、くまもと県民交流会館にて開催されることが案内されました。

その他として歯科医師会側からメディカルスタッフ向けの口腔ケア研修会の今年度の開催についての要望がありました。また、中島医長の方から熊本障害者歯科医療ネットワーク(仮)を今年度中に立ち上げる予定との報告がありました。さらに、本年度の医歯連携セミナーと臨床口腔外科講演会が当院研修センターで開催されることが案内され、加えて熊本摂食嚥下リハビリテーション研究会が当院で年8回、開催されることも報告されました。

最後に清村会長から訪問歯科における介護保険の問題点を例に、高齢者の口腔ケアや摂食嚥下についての連携の必要性を提言していただき、閉会となりました。

(歯科口腔外科医長 中島 健)

第24回 臨床薬理セミナー開催報告

熊本県・市医師会、病院薬剤師会、熊本医療センター共催による臨床薬理セミナーが梅雨のまだ明けぬ7月4日(日)雨の中、当院地域医療研修センターにて開催されました。昨年は新病院移転の準備などもあり開催できませんでしたが、このセミナーは医師、看護師、薬剤師へ最新の医療に関する医療情報を提供する場として毎年1回この時期に開催されており、県内において高い評価を受けています。158名(薬剤師153名、医師5名)の事前予約のうち、欠席者もいましたが、当日参加、当院の参加を含め173名の受講となりました。

今回は、今まで開催されていないテーマと糖尿病の新しい治療薬が登場したことにより「糖尿病と内分泌代謝疾患について」とさせていただきます。

河野文夫副院長の挨拶により開会し、演題1の座長を当院の糖尿病内分泌内科部長 東輝一朗先生にお願いし、「今後の糖尿病治療戦略」と題して熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学教授 荒木栄一先生から、糖尿病の新しい診断基準が示され、より早期からの診断治療が必要なことと新しい治療薬が登場したことにより、それぞれの病態にあった治療の選択肢が可能になったことなど分かりやすく解説していただきました。

演題2を熊本大学医学部附属病院薬剤部教授 薬剤部長 齋藤秀之先生座長の下「効果的な糖尿病患者の服薬指導」をテーマに 陣内病院 薬剤師 西村博之先生より、薬剤師として服薬指導の重要なポイントをご自身の実践を踏まえて解説していただき、患者情報の共有、血糖の日内変動の把握、患者心理と自己管理能力の重要性を強調されました。さらに保管方法やヒューマンネットワークについても紹介されました。

最後に、演題3の座長を当院糖尿病内分泌内科医長 豊永哲至先生に交替し、「糖尿病治療におけるインクレチン関連製剤の位置づけ」と題して 国保水俣市立総合医療センターの糖尿病内分泌センター所長 西田健朗先生より新しい作用機序の薬であるインクレチン製剤について講演いただきました。今までの糖尿病薬の問題点など挙げられ、この製剤がまだ出たばかりでわからないことも多くあるが、GLP-1、DPP-IV阻害剤の可能性について詳細に解説されました。

参加の先生方へのアンケートのご意見を踏まえ、次回も最新の治療法、薬剤の使い方など各分野の先生方によるセミナーを開催する予定です。多数のご参加を心よりお待ちしております。

(薬剤科長 舛重 正人)

新病院施設紹介〈9〉

防災センター

防災センター室内



安全・防犯監視モニター



受電設備



高圧発電機



新しく生まれ変わった防災センターをご紹介します。国立病院機構熊本医療センターの防災センターは1階に位置し、設備を大きく分けると防災設備、安全・防犯設備、空調管理制御設備、照明スケジュール制御設備、受変電設備、エレベーター管制設備、非常用発電機設備等がありこれを管理しております。

防災センターは24時間体制で、防災センターの中央にある3台の中央監視盤により、院内の重要な情報を受けその処理に当たっております。防災設備はR型受信機と非常放送を連動させ、院内で煙・ガス・炎等を感じたら、その階数や場所の平面図と位置が監視盤に表示され、自動的に非常放送が連動されます。防犯設備としては院内至る所に電気錠が設置され、パスカードにより部屋の出入り通行を管理。病院の出入り口には全て監視カメラを設け防犯に貢献しております。受電設備は6600V高圧受電で契約電力は現在2000KW。今年の夏は初めてのピークを迎え、2100～2200KWを見込んでおります。

非常用の発電機は川崎重工業の高圧発電機で1000KW、エンジンは1250馬力のガスタービンを使用し燃料は灯油で備蓄は3万リットルです。無停電設備（UPS）は医療用が200KVA情報用が50KVAです。エレベーター管制設備による管理エレベーターは全機合わせて12機。小物の血液検体等の搬送は気送管（エアシューター）にて行っております。その全てを防災センターは総勢9名で管理しております。

（電気士長 村上 聖一）

2010 診療科紹介 (27)

呼吸器内科 (呼吸器センター)



医長

柏原 光介

呼吸器一般、内科、救急医療

日本内科学会認定医

日本呼吸器学会専門医

日本呼吸器学会指導医

日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

日本呼吸器内視鏡学会指導医

日本感染症学会ICD

日本臨床腫瘍学会暫定指導医

日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医師

岡本 知久

呼吸器一般、内科、救急医療



医師

山根 宏美

呼吸器一般、内科

日本内科学会認定医

診療内容・特色

平成20年4月より熊本大学呼吸器内科から派遣され赴任後2年が経過しました。赴任当時は柏原光介、森山英士、岡本知久の男三人での船出でしたが、平成21年4月に森山医師が退職し、代わりに紅一点で山根宏美医師が着任しました。当院は年間8,000台を越える救急車が来院する救命救急センターを有し、また「救急患者を断らない医療機関」として地域に浸透し開業の先生方や老健施設からの紹介患者も多いことから、急性期から慢性期、軽症から重症の多種多様な呼吸器疾患を診療しております。

診療実績

平成21年度の診療実績として、年間の外来新患患者数は1,239名で、紹介患者が83.3%を占め、入院新患患者数は年間671名と順調に増加しております。ただし平均在院日数が15.5日と赴任時に比較して4.1日延長している点が悩みの種です。当科入院患者の約60%は救急外来を経て入院される急性期疾患であり、高齢者社会を反映して嚥下性肺炎や急性呼吸不全症例が多いのが特徴であります。急性期を乗り切った後に入院前のADLまで回復できず自宅退院ができなくなる患者様も多く療養型病院の先生方にご協力をいただいておりますが、転院調整が難航していることが平均在院日数の延長の原因です。「救急患者を断らない医療機関」を継続するために皆様方のいっそうのご協力が不可欠です。また当院は精神救急を行っている救急医療機関であることから一般病棟での管理が困難な患者様も、

精神科医師と共同して積極的に内科的治療を行っております。

研究実績

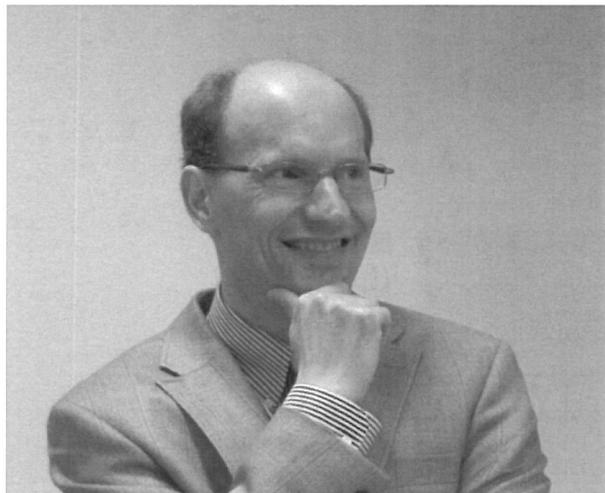
赴任して2年間に熊本大学呼吸器内科時代に取り組んでいた臨床研究を2本の英文論文にまとめました。現在は当センターでの臨床研究を世界に向けて送り出すのが目的です。しかしながら2回/週の夕方までの外来、10-15名の入院患者管理、3日に1回の夜間/休日待機で体力・気力とも消耗され、次第にその目的もフェイドアウトしてきました。また肺癌に関しては九州肺癌臨床研究機構 (LOGIK) や西日本がん研究機構 (WJOG) に所属して臨床治験へ参加しています。しかしながら呼吸器内科の患者が救急外来を経由する方がメインであることから臨床試験にエントリーできる、合併症や基礎疾患のない対象者が少ないことも悩みの種です。当センターの臨床体制では呼吸器内科的には臨床試験への参加や論文作成は至難の業であります。

- Kashiwabara K. J Thorac Oncol 2008; 3:1416-1420
- Kashiwabara K. J Thorac Oncol 2009; 4:1111-1116

ご案内

呼吸器内科外来 (午前8時30分～11時が受け付け) は、月曜日と木曜日は柏原、火曜日と金曜日は岡本、水曜日は山根が担当しております。また、毎月第3月曜日には開業の先生方といっしょに症例検討会、「月曜会」を当院研修ホールにて開催しております。それぞれの立場で激論が交わされます。

エール大学コミュニケーションセンター所長ヴァンス教授をお迎えして



ヴァンス教授

この度、当院では米国エール大学のウィリアム・ヴァンス教授を7月12日から16日までお招きして、英語コミュニケーションに関する職員研修を行いました。エール大学はクリントン大統領やブッシュ大統領親子など数多くの大統領を輩出している全米でも有数の名門大学です。ヴァンス先生は英語を専門とする言語学者であり、学生だけでなく、世界中の企業、政府機関、マスメディアなどに英語を指導されています。その中には、アメリカのニューヨーク・タイムズやイギリスのBBC放送なども含まれています。まさに、英語教育

のプロ中のプロといえます。このような高名な先生を熊本にお迎えすることができたので、一部の講演は院外の方にも公開しました。

初日の12日は、「コミュニケーション戦略」と題して講演していただきました。英語を話す時、相手に理解してもらえないのは、単に発音が悪いというだけでなく、話の持っていく方が悪いことも多々あるとのこと。相手が理解しやすくするには、どのような論法で話をしたらいいかを分かりやすく教えていただきました。13日の「明瞭なスピーチ」の講演では、ネイティブ・スピーカーが理解しやすい発声方法やボディランゲージの重要性を教えていただきました。これらの講演とは別に、13～16日は研修医に国際学会での発表の仕方を実戦形式で指導していただきました。ビデオ録画や音声分析ソフトを使った斬新な研修で、研修医の発音やプレゼン能力は短期間のうちに目を見張るほど向上しました。

ヴァンス先生の研修は目標が明確であり、とても分かり易いものでした。英語を流暢に話すには自分が何をすべきかが分かったようなすばらしい研修だったと思います。

(臨床研究部長 芳賀 克夫)

ヴァンス教授のレクチャーを終えて



2年次研修医

片桐 光浩

去る7月12日～7月16日、エール大学のヴァンス教授が来熊され、主に2年次研修医を対象に英語によるプレゼンテーション方法のレクチャーをして頂きました。

医学用語の正確な発音や、英語での文章表現はもち

ろんの事、いかにして聴衆の方に自分の伝えたい事を伝えるか、また、スライドの中でも自分が表現したい部分の強調の仕方、完全な文章は不要でありインパクトのあるスライドやイントネーションやリズムのある文章が重要である事を学びました。それは英語での発表だけでなく日本語での発表でも同様に言えることであり、我々研修医にとって大きな学びとなりました。

普段の研修生活の中で英語に接する機会はほとんどなく、医師になったばかりの我々にとってこのような本場の英語を使っただけのレクチャーは将来の医師人生に多に役立つ事ができる大変貴重な経験となりました。このような機会を設けて頂いた事に深く感謝すると共に、この先も研修医教育として今回のようなレクチャーが定期的に行われる事を願います。

最近のトピックス

悪いところだけを置換し、正常に近い膝を再現するOxford単顆置換型人工膝関節



整形外科医長

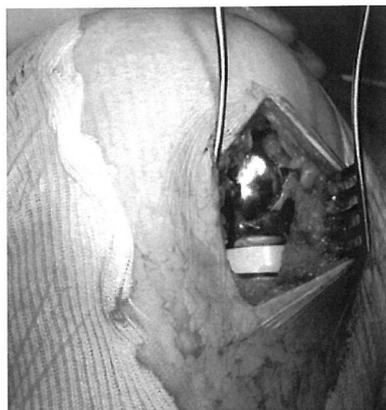
福元 哲也

わが国の総人口125,000万人のうち変形膝関節症の患者数は1,200万人で要治療者は700万人と言われていいます。中高年になって膝が痛む病気の中で最も多く見られる変形性膝関節症の手術療法で比較的新しい手術を紹介いたします。

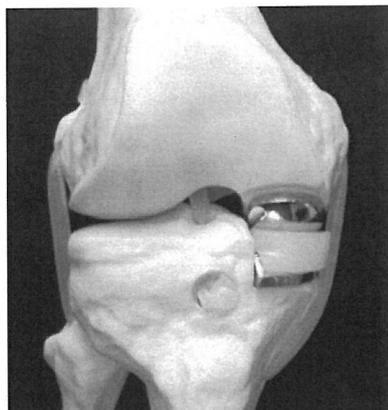
通常は若い患者さんには脛骨骨切り術を行い、高齢であれば人工膝関節全置換術を行っていましたが、適応を選び、当院では2002年12月から英国のオックスフォードグループが開発したOxford単顆置換型人工膝関節(以下Oxford UKA)を行っています。

軟骨の欠損部のみを置換するUKAは以前から行う施設はありましたが、耐久性に問題があり、手技も確立していませんでした。しかし、Oxford UKAは小切開での手術が可能で、伸展と屈曲位におけるギャップが正確に一致させることが可能な手術手技となっています。そして、介在するポリエチレンは可動性を有し、半月板と同様の荷重分散、関節面の適合性をえられることから、メニスカス(半月板)ベアリングといわれ、非常に耐摩耗性に優れています(年間平均磨耗率0.03mm)。正しい手術を行えば15年生存率が98%の報告もあります。

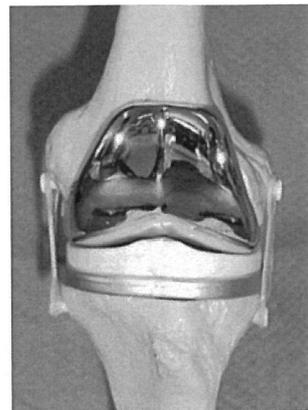
まずは適応が重要で、MRIでの術前評価も行っています。



手術は内側のみ8cm切開して行います



Oxford UKA: すべての靭帯が温存されます



全置換術 TKA: 前十字靭帯、後十字靭帯は切除します。

- 1) 変形性膝関節症、骨壊死症例の中で内側のみの関節症
- 2) 前十字靭帯の機能と、外側の軟骨が温存されている
- 3) 屈曲拘縮15°以下、内反変形が15°以下、徒手で内反の矯正が可能

これらは変形性膝関節症の手術症例の1/4が適応となりますが、可動域が悪くなり手術を希望される患者が多いため実際は約1割に行っています。

人工膝関節置換術に比した利点は以下が挙げられます。

- 1) 小切開手術が可能(当院では8~10cm)
- 2) 出血がほとんどなく(当院平均170cc)侵襲が少ない
- 3) 術後可動域訓練がいらぬ(歩く練習だけです。)
- 4) 術後の屈曲が良い(平均135度)
- 5) 正常に近い動きがえられる(靭帯が全て温存されているため)
- 6) 2週間で自宅退院可能

しかし、問題点もあります。1) 手術手技がやや困難であること 2) 可動域が良すぎるためにベアリングの脱転の可能性があることです。幸い当院では脱臼は経験しておりません。ご高齢の患者さんに手術を行う場合には通常的人工膝関節よりも体への負担の少ない手術ですし、術後の耐用年数も問題ありませんが、50代程度の比較的若い人に使用する場合には将来入れ替え手術が必要になる可能性が高い事を考慮しておく必要があります。

Oxford UKAは悪くなった骨の表面を削って、薄い金属をかぶせるので人工関節の部類にはいますが、従来の全人工膝関節(TKA)にくらべると、骨の削る量が圧倒的に少なく、靭帯は切除せず、剥離もしませんので正常な膝の動きを回復させることが可能です。合併症が少ないと同時に、術後の可動域訓練がいりませんので非常に楽で、患者さんの満足度が非常に高い手術となっています。

研修医レポート

臨床研修医

1年次 ^{やまくち} 山口 ^{しん べい} 晋平



こんにちは、私は産業医科大学出身で、現在研修医1年目の山口晋平と申します。分らない事があまりに多く悪戦苦闘の毎日ですが、気がつけば早くも3カ月が過ぎております。最初の2か月は麻酔科を、現在は消化器内科を1カ月ローテートさせて頂いております。

まず麻酔科では麻酔導入・維持・覚醒の手順を学ぶ事以前に、まず医師として、研修医として当然身につけておくべきルート確保や気道確保といった手技の習得からのスタートでした。また毎日2・3人ずつ新しく受け持つ患者さんの全身状態の把握を、如何に素早

く、漏れなくやっていくかという事も求められました。スピード感とスリル溢れる麻酔科を最初に回ったことは、私にとってはかなり一杯一杯ではありましたが、初期研修を始めるにあたり非常に良い機会になったと思っております。

次の消化器内科では、まずは病棟業務に慣れる事から始まり、徐々に消化器疾患の診断から治療までの流れを理解できる様になって参りました。その中で、消化器疾患を背景に持ち入院直後に敗血症や脳出血といった消化器以外の疾患も見つかる患者さんもあり、その管理も教科書も調べながら各科の先生に御相談をし、指導医の先生と話し合い治療方針を決めるという経験もし、これが実際の臨床の現場なのだと感じております。

現在、初期研修の1/8が早くも終わってしまっている事に正直驚きと焦りを感じておりますが、日々の業務から得られる経験・手技を1つ1つ確実に自分のものとしていかねばと考えております。今後もスタッフの皆様には多くの事で御迷惑をお掛けするかと存じますが、今後も御指導・御鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

臨床研修医

1年次 ^{よしづ} 吉津 ^{きみ} 希美



こんにちは。研修医1年目の吉津希美と申します。北九州市にある産業医科大学を卒業し4月から地元である熊本に帰って研修をさせて頂いております。早いものでローテートが始まり3カ月が経過しました。日々わからないことだらけで、指導医の先生をはじめ他の先生方やコメディカルの方、事務の方々にお世話になりっぱなしの毎日です。

私は外科から研修をスタートさせていただきました。外科では、患者さんとの接し方や診察の仕方、カルテの書き方など基本的な医師としての業務はもちろんのこと、鼠径ヘルニアや腹腔鏡下胆嚢摘出術をはじめ結腸切除術、臍頭十二指腸切除術、食道、乳腺、肺の手

術など多岐にわたるオペを経験することができました。体力が持つかが正直心配でしたが、外科のチームの一員として医療に関わることができ、楽しく充実した、あっという間の2ヶ月でした。

今は、血液内科で研修させて頂いております。専門的な知識を必要とし、化学療法や骨髄移植など、どんな治療を行っているのかを理解するだけで精一杯ですが、指導医の先生に日々丁寧に教えて頂き、少しずつ知識を増やせていけたらと思います。特に骨髄移植は、患者さんの容態が急変しやすく、血液データと患者さんの主訴や状態を毎日丁寧に観察することが大切です。早く、一スタッフとして力になれるよう、頑張りたいと思います。

まだ研修は始まったばかりですが、同期にも恵まれ、濃い充実した日々を送らせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。これからもご迷惑をお掛けしてばかりかと思いますが、ご指導の程、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

くまびょうNEWS55号から継続して掲載されています。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

■ 研修のご案内 ■

第139回 月曜会（無料） （内科症例検討会） [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成22年8月16日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「高カルシウム血症の1症例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 島川 明子

4. ミニレクチャー「脳卒中治療ガイドライン2009から考える脳梗塞二次予防」

国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第108回 三木会（無料） （糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会） [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成22年8月19日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「高カルシウム血症クリーゼを来した原発性副甲状腺機能亢進症の一例」

国立病院機構熊本医療センター 糖尿病・内分泌内科

島川明子、児玉章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一朗

2. 「糖尿病および妊娠糖尿病の新しい診断基準とHbA1cの国際標準化について」

国立病院機構熊本医療センター 糖尿病・内分泌内科

豊永哲至、島川明子、児玉章子、高橋毅、東輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第8回 二の丸肝臓談話会 [日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成22年8月24日(火)19:30~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

C型慢性肝炎医療連携の現状と今後の展開

座長 七城木村クリニック院長 木村 圭志先生

講演1「インターネットによる医療連携の現状と展望」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長

杉 和洋

講演2「患者の視点に立った地域連携クリティカルパス」

国立病院機構熊本医療センター7階西病棟看護師長

田中 幸子

講演3「当院における肝疾患医療福祉相談支援の取り組み」

国立病院機構熊本医療センター地域医療連携室MSW

西迫はづき

総合討論 「C型肝炎心療における基幹病院とかかりつけ医の連携」

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第106回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成22年8月25日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「失神・一過性意識消失」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科医長 藤本 和輝

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL:096-353-6501(代表)内線(2630) 096-353-3515(直通) FAX:096-352-5025(直通)

2010年 研修日程表 8月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

8月	研修センターホール	研修室	その他
2日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
3日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
4日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
5日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
6日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
7日(土)	13:30~17:00 第79回 救急蘇生法講座 講師 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 江崎 公明		
9日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
10日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
11日(水)	18:00~19:30 第64回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
12日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
13日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
14日(土)	13:30~16:30 第117回 看護卒後研修「看護倫理」 宮崎大学医学部社会学講座生命・医療倫理学分野准教授 板井孝孝郎		
16日(月)	19:00~20:30 第139回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定]		8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
17日(火)	18:00~19:30 第53回 くすりの勉強会(公開)		15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
18日(水)			17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
19日(木)		19:00~20:45 第108回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座 単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>の単位認定]	7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
20日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室「慢性肝炎」(研2) 19:30~21:00 臨床口腔外科講演会(研2) 「種々の基礎疾患をもつ患者の歯科治療について」 健康保険人吉総合病院歯科口腔外科部長 石神 哲郎	8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
21日(土)	14:00~16:00 第223回 滅菌消毒法講座「滅菌装置の構造と保守管理」 三浦工業株式会社メディカル事業部 高橋 裕一		
23日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
24日(火)	19:30~21:00 第8回 二の丸肝臓談話会		15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
25日(水)	18:30~20:00 第106回 救急症例検討会「失神・一過性意識消失」		17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
26日(木)			7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
27日(金)			8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
30日(月)			8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
31日(火)			15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前後症例検討会 C1 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手 手術室
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)